

霞ヶ浦アカデミーNPO法人設立趣意書（案）

霞ヶ浦は古くは万葉集、常陸国風土記にも登場する海跡湖で、わが国第二の大湖として沿岸や流域の人々の暮らしと歴史、文化の形成に深く関わってきました。

その姿は江戸幕府の利根川東遷事業や明治以降の近代土木事業によって少しずつ変貌を遂げ、現在では洪水被害はほぼ克服され、豊かな淡水資源が確保されていますが、人口と産業の集中度が増すにつれ水質や自然景観、豊かな生態系の変化が顕著になってきました。

私たち霞ヶ浦アカデミーは「霞ヶ浦」、「水」をキーワードとして広く環境保全に関心を持つ人材の育成と確保を主な目的として、以前から霞ヶ浦と様々な形で関わってきた市民有志が主体となって1999年に結成された任意団体です。

これまでの主な活動は、行方市の霞ヶ浦ふれあいランド・水の科学館のご理解とご協力の下に同館を主な活動拠点として、石岡および玉造ロータリークラブほかの協賛を得て1999（平成11）年から2004（平成16）年まで5年間にわたり毎年2月に「霞ヶ浦水産フェスタ」を開催して、霞ヶ浦の歴史・文化・漁業等を背景にして多くの人々に環境への関心を喚起してきたほか、2004（平成16）年からは青少年を中心とした「霞ヶ浦生き物アカデミー」や成人、指導者向けの「霞ヶ浦環境教育指導者養成講座」の開講と、同館内における「霞ヶ浦に棲息する魚類の水槽展示」などの情報発信を行ってきました。

しかし、現状ではこれらの活動の大部分は個人レベルのエネルギーに依存しているのが実情で、事業目的の明確化、企画・運営力の充実・向上を考えると、財政基盤と組織の強化・充実が一層望まれています。

2003（平成15）年に地方自治法の一部改正により水の科学館などの公共施設の管理・運営に指定管理者制度が導入され、管理者の自主性尊重、行政コスト縮減、利用者サービス向上とあわせ地域振興と活性化を目指すことになりました。当アカデミーとしては指定管理者制度の精神を尊重し、同館の指定管理者である行方市開発公社との協同・連携を更に強固なものにしてゆくことも必要と考えています。

このような現状から今後の発展方向を展望すれば、当アカデミーの社会的信用度の増大と責任ある団体運営は不可欠であります。したがって現状の任意団体から法人格を持つNPO法人に改組して、企画・運営能力の向上と事務処理量の増大に対応できる組織と人材の確保を目指します。

このため、現有の人材に加えて事業目的に賛同を得られる会員を多数募り、霞ヶ浦の水環境に関する調査・研究・教育活動とあわせて人材育成に関する活動を担える組織にして、地域の向上・発展に寄与するものです。